



2025年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) について

2023年6月21日 駐車場対策協議会（第2回）

開催概要



- 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現する様々な参加形態や事業、会場のデザインを含む会場計画、運営計画、資金計画等をまとめた協会のマスタープラン「基本計画」を2020年12月25日策定・公表
- 基本計画に基づき、参加国、国際機関への招請活動や企業・団体・自治体・市民団体等の参加と共創を促進するとともに、各事業の実施計画の策定や具体的な取り組みを推進

開催概要

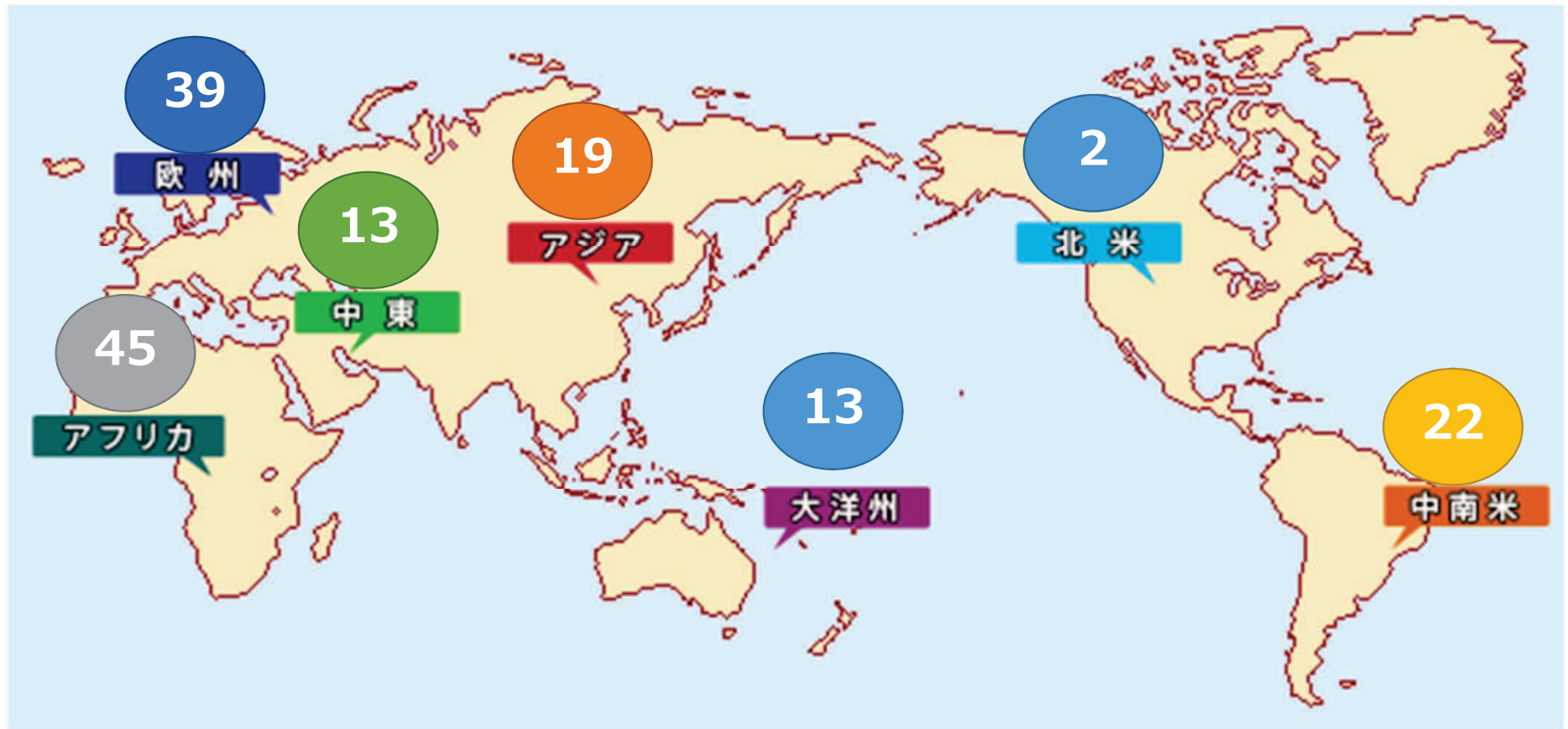
名称	2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）
テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
サブテーマ	Saving Lives（いのちを救う） Empowering Lives（いのちに力を与える） Connecting Lives（いのちをつなぐ）
コンセプト	People's Living Lab（未来社会の実験場）
会場	夢洲(ゆめしま)（大阪市此花区）
開催期間	2025年4月13日～10月13日



153か国・地域、8国際機関が参加表明済（2023年3月24日現在）



- 目標（150の国・地域の参加）を達成。
- 日本国内で開かれた万博では過去最多。（参考：2005年愛知万博は120か国、1970年大阪万博は76か国）



背景地図出典：外務省ウェブサイト

万博会場（夢洲）の位置



世界とつながる海と空に囲まれた万博（会場デザイン）



- 四方を海に囲まれた会場ロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」に囲まれた万博としての会場デザイン及び企画などを実施。
- 「非中心・離散」の理念によって多様性を鼓舞し、そこに「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」をデザイン。



会場の四方を海に囲まれた国際博覧会としては初となる「海の万博」



主な会場施設



●世界最大級の「木製リング」や、会場の喧騒の中でひととき静かに落ち着ける「静けの森」が特徴的なレイアウト。



世界最大級の木製リング（一周 2 km）



- 「多様でありながら、ひとつ」という本万博の理念を表すシンボルとなる建築物。
- リングの屋上からは会場全体を様々な場所から見渡すことができ、瀬戸内海の豊かな自然や夕陽を浴びた光景を楽しむことができる。



建築面積約60,000㎡、高さ12m（外側は20m）、内径約615m

外観



屋景



夕景

リングスカイウォーク（屋上）



静けさの森



- 会場の中心部に、賑わいあふれる万博会場と対照的な、静けさの森を計画。森の樹木は大きな日陰をつくり、来場者に快適な憩いの場を提供。
- 整備にあたり、新植に加え、万博記念公園をはじめ、府内公園等から間伐予定の樹木を移植し、自然な森の景観を形成。
- 自然の癒しのちからを体験し、生命の息吹を感じられるイベントを開催。



3DCGで表現したイメージ（出典：大阪・関西万博フライスルー動画より）



屋外イベント広場



- 大きなステージでのトークライブや大型映像装置を利用した映像コンテンツの上映、パレード、各地の祭りや伝統芸能等を実施。



収容人数:10,000人規模

屋外イベント広場イメージ

日本館、大阪パビリオン



日本館

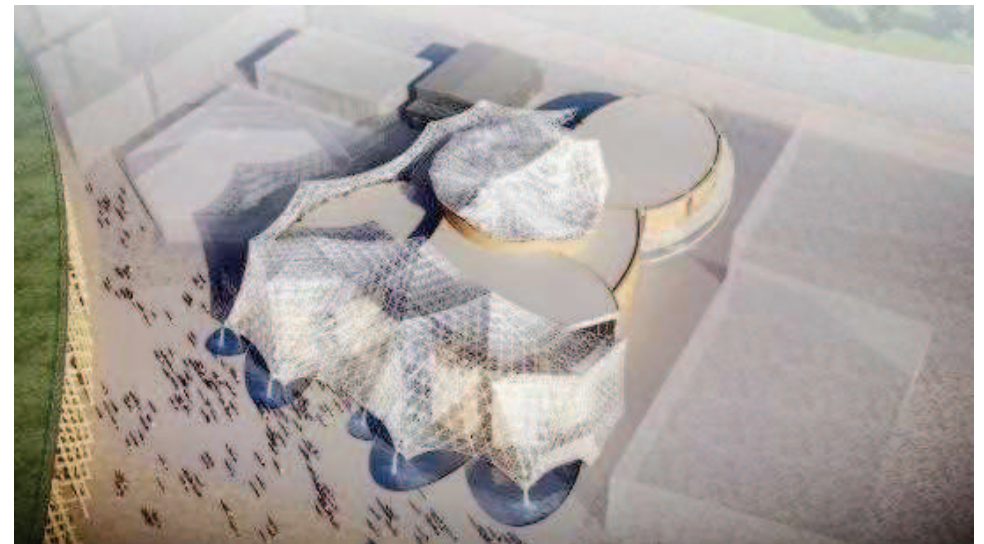
- テーマ「いのちと、いのちの、あいだに」
- 他のいのちとのつながりや「循環」の中で生かされている（自らが地球という船の一員である）ということへの気づきの機会を提供。
- 建築材料には耐久性に優れた木材を使い、万博後は再利用につなげていく方針。



提供：経済産業省

大阪パビリオン

- テーマ「REBORN（リボーン）」
- 「健康」という観点から大阪の強みを活かしてワクワクしながら明るい未来が感じられる展示や催事を実現。
- 楕円の展示エリアが重なり合い、ゆるやかなスロープでひとつながりの回遊性を生み出すユニバーサルデザインに配慮した設計。



提供：（一社）大阪パビリオン

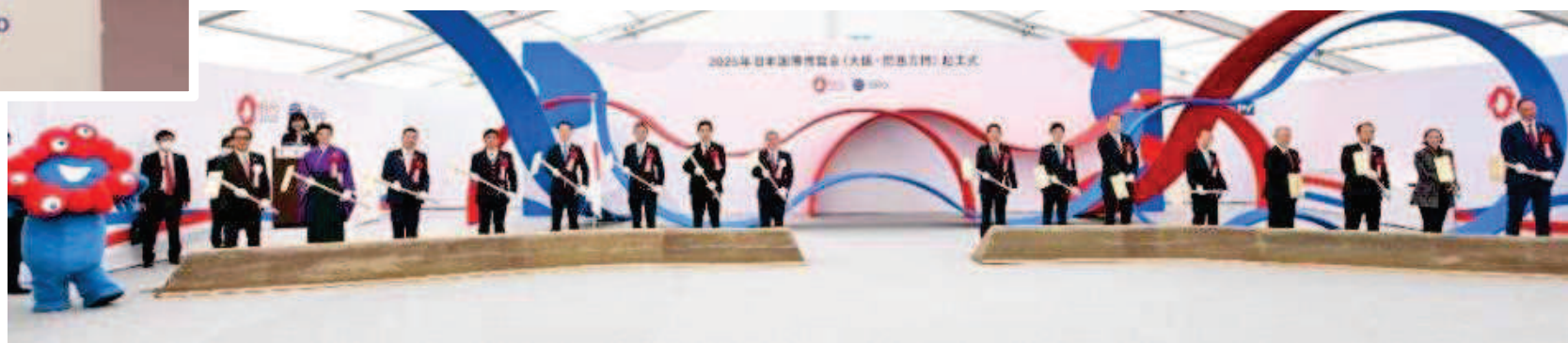
2025年日本国際博覧会「起工式」(2023年4月13日)



- 政府関係者や国会議員、地元議員、府県知事や政令市長のほか、公式参加国、出展・協賛者、寄付者、施工者、プロデューサー、シニアアドバイザー、アンバサダー等の協会関係者など、来賓255名が出席。
- 万博開催に向けた工事の無事と成功を祈念し、岸田文雄内閣総理大臣、西村康稔経済産業大臣、岡田直樹国際博覧会担当大臣をはじめ、16名による鍬入れを実施。



岸田首相挨拶



鍬入れの様子

ミヤクミヤクを使用した「公式ライセンス商品」販売開始



- 2023年4月より、公式キャラクターミヤクミヤクを使用したグッズの販売を開始。
- 予想を超える売れ行きとなり、ぬいぐるみは販売早々に完売。再販を予定。



第1弾（2023年4月12日）
ぬいぐるみ、Tシャツ、タオル、トートバッグなど



第2弾（2023年5月31日）
アクリルスタンド、缶バッジ、ピンバッジ

これまでの取り組みと今後のスケジュール



- 2020年 万博の基礎をつくる
 - 7/13 プロデューサーの選定
 - 8/25 ロゴマークの決定
 - 9/16 博覧会推進本部が発足 (国)
 - 12/1 BIE総会 (登録申請書の承認)
 - 12/21 基本方針を閣議決定 (国)
 - 12/25 基本計画策定・公表 (協会)
 - 3/4 基本計画説明会
- 2021年 働きかけと具体化
 - 8/19 出展参加説明会
 - 9月-10月 民間パビリオン出展募集
 - 12/24 アクションプラン策定 (国)
- 2022年 開幕時の姿を意識した準備に着手
 - 3/22、7/18 公式キャラクターデザイン決定、愛称が「ミヤクミヤク (MYAKU-MYAKU)」に決定
 - 10/24 大阪・関西万博 特別仕様 ナンバープレート の交付開始
 - 10/25、26 I P M の開催

10月-3月
ドバイ博
(登録博)



4/13 起工式

過去4年間の成果を踏まえた、「実行実現の年」

前売り入場券販売開始
建築工事の開始
パビリオン敷地引渡し

4月13日~
10月13日

大阪・関西万博 開催



ロゴマークの決定
(アンバサダー 松本幸四郎氏)



基本計画公表

